

事務事業名		博物館展示事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	06 豊かな心を育む人づくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	30 地域文化の伝承と創造					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 文化財の保存と活用					01	10	05	06	08
根拠法令		博物館法									
所属	部課名	教育委員会博物館									
	係名	博物館	電話	29-2161							
			内線	-							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)					全体計画(期間限定複数年度のみ)						
・博物館資料を公開する事業。 ・主な業務は、常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の適正な維持管理、常設展示資料の追加・更新、たいけんコーナーの充実、企画展示・特別陳列の実施、企画展示図録の刊行。 ・事業費は、企画展示図録印刷費、企画展示・特別陳列消耗品費、展示資料借上謝金、展示用各種照明電球代、たいけんコーナー用消耗品などに支出される。					総 投 入 量 (千 円)	事 業 費 内 訳	国庫支出金				
							都道府県支出金				
							地方債				
							その他				
							一般財源				
							事業費計(A)	0			
正規職員従事人数											
延べ業務時間											
人件費計(B)	0										
トータルコスト(A)+(B)	0										

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称	単位
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 常設展示資料件数	件
常設展示の公開、館内説明の実施、展示資料及び展示設備の維持管理、常設展示資料の追加・更新、たいけんコーナーの充実、企画展示の実施、企画展示図録の刊行、特別陳列の実施。		イ 特別展示実施回数	回
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ 特別陳列、巡回・移動展示実施回数	回
前年度同様。		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		名称	単位
市民		カ 人口	人
碓石海岸を訪れる観光客		キ 観光客入込数(碓石海岸)	人
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		ク	
展示事業を通して、気仙地域の自然と文化について学ぶことができる		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		名称	単位
博物館資料が保存・活用される		サ 博物館利用者数	人
次世代へ継承される		シ	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実施)
投入量	事業内訳	単位						
		千円						
投入量	国庫支出金	千円						
	都道府県支出金	千円						
	地方債	千円						
	その他	千円						
	一般財源	千円	736	361	917	740	717	200
	事業費計(A)	千円	736	361	917	740	717	200
	正規職員従事人数	人	3	3	3	3	3	3
	延べ業務時間	時間	1,670	1,000	1,670	2,000	2,000	700
	人件費計(B)	千円	6,680	4,000	6,680	8,000	8,000	2,800
	トータルコスト(A)+(B)	千円	7,416	4,361	7,597	8,740	8,717	3,000
活動指標	ア	件	1,474	1,479	1,484	1,484	1,484	1476
	イ	回	1	0	1	1	1	0
	ウ	回	3	3	3	2	2	2
対象指標	カ	人	43,209	42,575	42,158	41,684	41,334	40,537
	キ	人	507,542	566,577	509,908	514,543	508,946	457,354
	ク							
成果指標	サ	人	10,280	9,295	8,004	8,698	7,217	7,335
	シ							
	ス							

事務事業ID	0898	事務事業名	博物館展示事業
--------	------	-------	---------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等

この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？

昭和41年、博物館法に基づいた登録博物館となったことをきっかけとして、各種展示事業を開始した。

事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？

常設展示は、昭和57年の新館開館から「大船渡 その海と大地」をテーマとして、映像展示室・地質展示室・考古民俗展示室の3室で公開を始めた。その後、平成3～5年度に常設展示改修を実施し低年齢層向けの「たいけんコーナー」を加えて4室での公開となり、平成10・11年度には館内の視聴覚設備更新と映像展示室のリニューアル(多機能な「シアター」化)を実施して現在に至っている。独自企画に基づく調査・借入・図録作成を伴う「企画展示(特別展)」を年1回実施している。また、収蔵資料の公開を中心とした「特別陳列」などを年数回実施している。県立博物館/県立美術館の移動展示や他市町村企画の巡回展(例:平泉の文化遺産巡回展)には多数の入館者があり、大変好評である。

この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？

・市民から、市政懇談会において漁具以外の民俗資料の展示充実を提言されている。
・団体入館者から、学芸員による常設展示の説明を受けた際には展示資料への理解が深められると好評である。

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 展示事業の推進は、博物館資料(文化財を含む)の活用につながる。
	公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 市の生涯学習施設である博物館が、展示事業を通して博物館資料(文化財を含む)を活用することは、市の施策としてふさわしい。
	対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 対象・意図ともに適切である。
有効性 評価	成果の向上余地	☒ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 向上余地がない [理由] 展示企画の「質」にあるべき水準との差異がある。日常から調査研究の意識を持ちつつ、展示企画のテーマや資料の調査研究を余裕を持った期間設定をして行わなければならない。 岩手県立博物館・岩手県立美術館の移動展示は、普段は市内でみることができない「質」の高い資料が展示されたことから大変好評であった。
	廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 資料を公開する機会がなくなり、博物館資料(文化財を含む)の活用に重大な支障をきたす。
	類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 博物館資料(文化財を含む)の展示設備が整い安全に公開できる施設は、市内では当館だけである。
効率性 評価	事業費の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 常設展示では、リーフレットの小型化、2色化、印刷単価の低減などの費用削減を行っている。また、照明用電球は耐用時間が長く省電力型製品を使用し、電気料削減に努めている。 企画展示では、案内ポスターを手作りとする、解説パネル用に薄型下地ボードを使用する、ボードを再利用するなどを行い、経費節減に努めている。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 費用を最小限にして市民の興味を喚起する展示を行うためには、事前の資料収集・調査研究をはじめとして企画内容の工夫などに専門職員(学芸員)が相当な時間をかけることはやむを得ず、削減の余地はない。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 一般からは入館料を徴収している。

事務事業ID	0898	事務事業名	博物館展示事業
--------	------	-------	---------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること)		(2) 全体総括(振り返り、反省点) 常設展示では、団体入館者への館内説明が好評であった。 特別陳列「大船渡・貝塚からのメッセージ」展では、国指定史跡 蛸ノ浦・下船渡・大洞貝塚をはじめ、市内にある主な貝塚からの未公開資料を含めた出土資料を展示し、学芸員による説明会を数回実施した。 全国椿サミットに合わせて開催した特別陳列「椿の美しさ」展では、震災により公開期間は短くなったものの、椿まつりの開催時期であったため多くの来館者があり、当市の花「つばき」への理解の普及が図られた。																							
<table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>有効性</td><td>☐ 適切</td><td>☒ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>効率性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> <tr> <td>公平性</td><td>☒ 適切</td><td>☐ 見直し余地あり</td></tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) <table border="1"> <tr> <td>☐ 廃止</td> <td>☐ 休止</td> <td>☐ 目的再設定</td> <td>☐ 事業統合・連携</td> <td>☒ 現状維持</td> </tr> <tr> <td colspan="5">事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)</td> </tr> </table> (上記方向性に対する具体的な内容) 時間的・内容的に十分な調査研究を基礎として、より質の高い展示企画を職員の創意工夫で行い、博物館資料(文化財を含む)の公開を図る必要があるが、東日本大震災の影響により、常設展示の維持に集中する。		☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持	事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)				
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																							
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																							
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																							
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																							
☐ 廃止	☐ 休止	☐ 目的再設定	☐ 事業統合・連携	☒ 現状維持																					
事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)																									
		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要)																							
		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		●	×																					
	低下		×	×																					
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 より質の高い展示を企画するため、資料の収集保管活動とともに、調査研究活動をより一層推進し、展示テーマ・展示資料の選定に結びつける。 また、常設展示の考古・民俗展示室は、新館開館以来28年間、部分的な展示改修にとどまっていることから、平成22・23年度の2ヵ年で合併建設計画に登載された「博物館施設改修事業(考古・民俗展示室常設展示改修)」を実施予定。なお、東日本大震災により、津波関係の展示を更新し、津波被害の普及を図る必要がある。																									

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	博物館長
-------	------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合

記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択)

- ☐ 記述不足でわかりにくい
☐ 一部記述不足のところがある
☒ 記述は十分なされている

評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択)

- ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない)
☐ 一部に客観性を欠いたところがある
☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)

(2) 2次評価者としての評価結果

目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり

(3) 評価結果の根拠と理由

調査研究に基づく、より質の高い展示の企画に努める必要がある。

(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可)

- ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持
 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善)

(上記方向性に対する具体的な内容)

より質の高い展示の企画のため調査研究を進めていく必要があるが、東日本大震災の影響により、現状においては常設展示を中心に継続して事務事業を実施する。

(5) 改革・改善による期待成果

左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。
(廃止・休止の場合は記入不要)

		コスト		
		削減	維持	増加
成果	向上			
	維持		●	×
	低下		×	×

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項